

磐田市立総合病院第23回市民公開講座 質疑応答集

【質問】

乳がんと妊孕性について、卵子凍結や胚凍結により、実際に妊娠出産された方、または自然妊娠により実際に妊娠出産された方の事例やデータなど、できれば国内の情報が知りたいです。国内で難しければ海外の情報でも聞けるとありがたいです。もしデータがなければ、なぜないのか（たとえば現実的に妊娠出産は難しいから事例がほとんどない等）を知りたいです。

【回答】

まず、ご質問全般について、日本がん・生殖医療学会ホームページ (<https://www.j-sfp.org/index.html>) や、そちらにリンクのある「乳癌患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療ガイドライン 2021年版」 (https://j-sfp.org/guideline_2021/) が参考となりそうです。

日本がん・生殖医療学会では、2018年11月から、原疾患や妊孕性温存に関する情報、妊娠成績や予後に関するデータのオンライン登録を行っています。妊娠症例の登録もあるようですが、現時点では、まとまったデータは発表されていないようですし、このシステムに登録されないところで、自然妊娠される方もいらっしゃるため、実態把握が難しいこともあるようです。

乳がん患者さんの妊娠成立に関しては、現実的に難しいということはないと思いますが、通常の不妊治療でも30%程度の成功率であり、さらに加齢の影響、もともとの妊孕性や男性因子を含めて様々な要因が関与するため、一概にいえないと思います。

【質問】

治療中（治療を一時中断して妊活する）の事例、治療後のそれぞれの事例や情報があれば、その辺りも聞けたらと思います。がん患者の妊娠や出産により胎児に与える影響なども教えてください。

【回答】

当院では妊孕性温存治療を行っておりませんので情報が十分ございません。妊孕性温存治療の実施施設においては、乳がん治療を中断して不妊治療を行い出産をされた症例や、治療前に凍結保存していた胚を胚移植し妊娠出産された症例など経験があるとうかがいました。乳がん治療後の妊娠出産に関する情報が日本乳癌学会ホームページ「患者さんのための乳癌診療ガイドライン 2019年版」にもありますので、リンクのQ&A (<https://jbcs.xsrv.jp/guideline/p2019/guideline/g9/q63/>) もご参考になさってください。

また、参考情報として、乳がん術後ホルモン療法を休薬し、妊娠することへの安全性を検証する国際共同臨床試験（POSITIVE 試験）が現在進行中です。

最新の情報が一般社団法人 JBCRG のホームページ上のプレスリリース資料 (<https://jbcrg.jp/topics/1981/>)、がんナビのニュース記事

(<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/cancernavi/news/202212/577731.html>)
よりご覧になれますのでこちらもご参考になさってください。

【質問】

がんのタイプやステージなど、人それぞれで状況は変わることはわかっているので、そのうえで情報をいただければと思います。よろしくお願いします。

【回答】

おっしゃるとおりで、それぞれ病気の状況や治療内容は異なりますので、通院中あるいは通院されていた病院の主治医等にご相談されることをおすすめいたします。また、当院にはがん相談支援センターがあり、妊孕性に関するご相談にも対応しております。お力になれることがあるかもしれませんので、よろしければご相談ください。

【質問】

まだ将来のことを考えられないのですが、考えないといけないのですか？

【回答】

まだ若いと将来のことについて想像がつかないのは仕方ないと思います。ただ、そういう選択肢があること、そういった問題があるということを知ってもらうことが大切だと思います。また、そういうときこそAYAサポートチームが必要と思うので、そこで一緒に考えていくのが良いと思います。

治療の途中で考え方が変わることはあり得るので、最初から情報を共有できる体制作りが重要と思います。

【質問】

小さな子供にがんと伝えることは難しいと思いますが、具体的にどう伝えるのが良いと思いますか？

【回答】

お子さんも両親もいろいろな考え方がありますので大変難しい問題と思います。お子さんにお話するリーフレットなどもありますので、そういったものを活用しながら、伝えるのも一つの方法かと思います。また、学校の先生など周りの人のサポートも活用するのも良いかもしれません。

【質問】

子供に医療者が直接お話をすることもあるのですか？

【回答】

主治医の考え方もあるかもしれませんが、これまで、医師から子供にわかりやすい言葉で伝えたこともありました。患者さんが、直接、自分の子供に伝えるのが難しければ、医療スタッフに相談するのも良いかもしれません。

【質問】

医師として、若い世代の患者さんに治療を進める上で最も重要視していることは何ですか？

【回答】

丁寧な説明をすること、患者さんが話しをしやすい雰囲気をつくることです。また、医師だけでなく看護師、リハビリ、心理士など多職種で診療に関わることで医師以外にも相談できる環境を作るようにしています。

【質問】

A Y A 世代への治療の進歩が遅れているとお話しされていましたが、進歩している事例も紹介してほしいです。

【回答】

私の専門である造血器腫瘍について言えば、AYA 世代の治療成績向上のために小児科治療に近い治療内容にすることが検討され実施しています。

【質問】

A Y A サポートチームは他の病院にも広がっているような制度ですか？他の病院に通院していても磐田病院のチームを利用できますか？

【回答】

AYA 世代のがん治療に対する意識は全国で広まっており、他の病院でも AYA サポートをするチームが立ち上がっています。他の病院で治療された場合でも当院でのサポートの希望があればぜひ利用して下さい。その場合には当院 AYA 外来（血液内科）への紹介状をお願いします。現在は造血器腫瘍の患者様に限らせて頂いておりますが、今後は拡充も予定しています。

【質問】

A Y A 外来ではどんな相談が多いのですか？

【回答】

現在は造血器腫瘍の患者さんに限って対応しておりますが、抗がん剤治療による晩期合併症のこと、就業や学業のことに関する相談があります。実際には相談事はないという方も多いです。それでもいつでも相談できるんだと感じて頂ける雰囲気作りをこころがけています。

【質問】

妊孕性について現時点でできること（独身なので卵子凍結しました）は行ったつもりですが、AYAサポートチームでは妊孕性に関するそれ以外のサポートや相談などは受けられるのでしょうか？

【回答】

病気や治療の状況に応じて、また年齢に応じてできることや心配事は変化していくと思います。患者さん自身に併せたご相談に対応させていただきます。

【質問】

一人暮らしなので傷病等とても不安です。緊急の際の対応策は死活問題ですがどうしたらよいか教えてください。

【回答】

現在当院に通院中の方は医療・福祉総合相談窓口にてご相談に応じています。地域の包括支援センターでもご相談可能ですので、具体的な情報などご確認頂ければと思います。

【質問】

「がん教育」について具体的な活動内容を教えてください。モデルになっている市町村はありますか？

【回答】

特にモデルにしている市町村はありません。文部科学省の「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」をもとにがん関連の医療者（医師、看護師）が教育資料を作成し、各教育機関の担当者と内容を協議し行なっています。

当院は2015年から教員や保護者、児童・生徒を対象に実施しています。2022年度までに教員・保護者対象は7校2地域、児童・生徒対象は小学校4校、中学校8校、高校11校へ行なっています。